



つなぐ通信

夏の暑さが続く中、地域の皆さんの見守りや声かけが、安心して暮らせるまちづくりにつながっています。今回の広報誌では、信頼関係の中で生まれた支援の事例や、顔の見える関係づくりの場面をご紹介します。「気になるな…」という小さな気づきが、大きな支えになることも。今後も包括支援センターは、皆さんとともに歩んでいきます。

地域を支える相談窓口

福島市中央東地域包括支援センター

住所 福島市春日町14-14

窓口相談：月曜日～金曜日(8:30～17:30)

TEL: 525-7888



地域の“見守り床屋さん”



春日町の理容店太田さん(店主)

父の代から数えて半世紀。姉弟で営む街の床屋さんは、髪を整えるだけではなく、心も整える場所です。店主の太田さんは、日々の仕事の中で地域の変化にも目を配り、心配な様子のお客さんには自然な声かけをしてくれます。

とある常連さんには、身なりの変化に気づき、「どうしたの？」と率直に伝えたことが、支援のきっかけとなりました。長年の信頼関係があったからこそ届いた言葉。その方は支援を受け入れ、生活環境を整え、今も太田さんの元へ髪を切りに通っています。



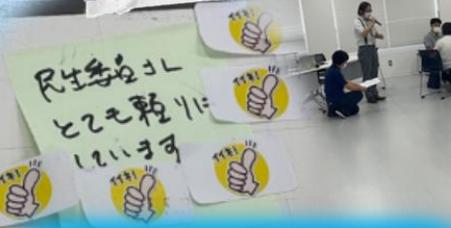
情報だけでは届かない部分を、人とのつながりで補ってくれる
——そんな頼もしい存在が、ここにいます。

お喜楽サロン

訪問看護の丹治さん・五十嵐さんと一緒に、体操や熱中症予防について楽しく交流しました。



高齢者虐待対応 研修会開催



“良いねシール”で共感の輪を



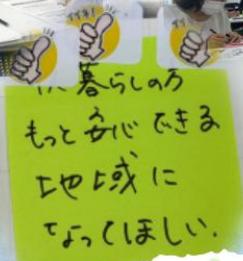
“自分だったら？”をテーマに立場を超えて意見を共有



みんなで深めた“気づき”と“楽しさ”



《長寿福祉課長寿支援係の
作田係長よりメッセージ》
虐待の早期発見が大切です。
一人で抱えず、チームで取り
組みましょう。『虐待かも…』
と思ったら、いつでも包括支
援センターへご相談ください。



連携の先にある、安心と笑顔
多職種でつくる支え合いの輪

